

世界標準の図書館であるために ～OCLC、書誌レコードの流通、 および早慶共同目録～

早稲田大学図書館

館長 ローリー ゲイ

本日の内容

1. 早稲田大学図書館とは
2. なぜOCLC
3. OCLCとともに
4. OCLCの可能性
5. OCLCへの期待

1. 早稲田大学図書館とは

沿革

- 1882(明治15)年10月 東京専門学校講義棟1室に図書室を開設
1900(明治33)年 3月 「東京専門学校図書館」と改称
1902(明治35)年10月 早稲田大学開校 早稲田大学図書館竣工
初代図書館長：市島 謙吉（号：春城）
1925(大正14)年10月 新図書館(現・2号館)開館
1991(平成 3)年 4月 中央図書館（総合学術情報センター）開館
⋮
2019(令和元)年 9月 早慶共同システム・共同目録運用開始



図書室が開設された講義棟



図書館外観(左・閲覧室、右・書庫)

OCLC WorldCat ®でつくる図書館の未来

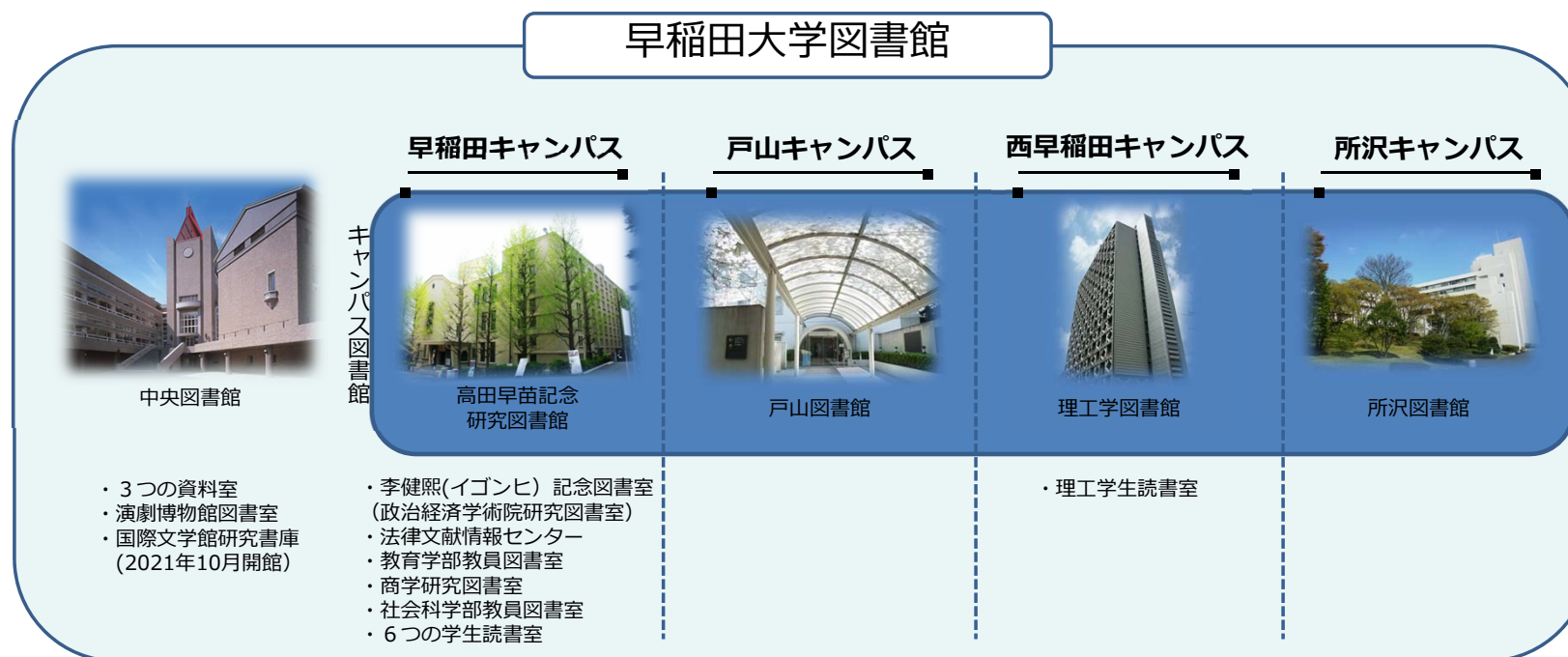


新図書館外観(現・2号館)

【画像出典】大学史資料センター写真DBより

1. 早稲田大学図書館とは

中央図書館、4つのキャンパス図書館、5つの教員図書室、7つの学生読書室等を含めた22の図書館・図書室の総称



1. 早稲田大学図書館とは

蔵書	図書：約600万冊 雑誌：約56,000タイトル 総資料費：約13.4億円 年間貸出総数：約52.2万冊(2019年度)⇒約38万冊（2022年度） 古典籍を多数保有：約30万件（含国宝2件、重要文化財5件）
電子資料	契約データベース数：183 利用可能な電子ブック数：約72万タイトル 利用可能な電子ジャーナル数：約17.5万タイトル 電子資料購入金額：約7億円
利用者数	年間入館者数：約180万人(2019年度)⇒約126万人（2022年度）

【参照資料】早稲田大学図書館年報 2022年度、令和4年度学術情報基盤実態調査

2. なぜOCLC

カード目録からデータベース化へ

- 1985年 早稲田大学学術情報システム「WINE」
(Waseda University Information Network System)
本格稼働開始
- 1988年 「和書データベース化事業室」新設
和書蔵書目録のMARCデータ化を開始、紀伊國屋書店との共同事業
- 1993年 洋書データベース化
⇒「OCLCの洋書書誌データ取込」は世界標準への第一歩
早稲田大学・紀伊國屋書店・OCLCの三者間での契約
和書の書誌データを早稲田大学・紀伊國屋書店がOCLCに提供し、
OCLCが洋書の書誌データを提供
⇒「和書の書誌データをOCLCへ提供」により世界標準の一角として貢献

OCLCを通じて、日本の学術情報を世界標準に近づける

3. OCLCとともに

- 早稲田大学図書館長は2015年よりOCLCグローバル評議会およびアジア太平洋地区評議会の評議員に就任
- OCLC Asia Pacific Regional Council Meeting
東京開催のホスト校となった
 - 2010年
“The Library in Support of Research and Scholarship”
 - 2017年
“Hello, I’m the smarter Library”
Asia Pacific地区15か国から220名の参加者があった

3. OCLCとともに

My experience of serving on both the OCLC Asia-Pacific Regional Council and the OCLC Global Council

- I have learned a lot. Sometimes it has been advice
 - how to deal with sensitive materials concerning identifiable individuals
 - the different solutions libraries have found to problems we all face, such as lack of space and tight operating budgets.
- **The principal benefit**
 - **the regular reminder of what we might call “library values”: what libraries are *for*.**

3. OCLCとともに

- OCLC Connexionの継続契約
 - 所蔵資料の書誌を登録
 - 自館の書誌にOCLC IDを付与

早慶共同目録としても、
世界標準であり続けるために継続中

4. OCLCの可能性

- OCLC IDによる、書誌データのバックアップ
- OCLC IDは世界レベルで信頼できる識別子、データ交換も可能
- ILLでの相互利用
- 早慶共同目録も、OCLC IDをキーにマッチング
コンソーシアム形成を世界標準のもとで

全世界に向けた学術情報の発信、プレゼンス向上

4. OCLCの可能性

- オープンサイエンス時代の図書館
 - 研究データ管理や発信は喫緊の課題
OCLC WorldCatで発信している研究機関あり

世界標準のメタデータには、あらゆる可能性がある

5. OCLCへの期待

- 新NACSIS-CAT/ILLシステムとの連携強化
 - 世界に学術情報を発信する土台ができた
 - NACSIS-CATは無料、OCLC Connexionは有料（適正価格か？）
それでも、世界標準であることで視認性向上・連携強化
 - 日本国内でのOCLC認知度向上と世界への日本の学術情報発信

5. OCLCへの期待

Waseda's participation in OCLC put our library on the global map.

- The era of Open Science presents academic libraries especially with new challenges.
- OCLC will be able to help us meet these and other challenges in the future.
- Based on a better understanding of the library environment in Japan, OCLC needs to make sure its systems are easy to implement; and to come up with a business model that at the very least is not an economic burden for individual libraries.

Wouldn't it be great if the special characteristics of *all* Japanese libraries were on the global map?!